

## 第 54 回高知県献血推進協議会議事録要旨

- 1 日時 平成 30 年 2 月 22 日（木）18：30～19：40
- 2 場所 高知城ホール 2 階 「中会議室」
- 3 出席者 高知県献血推進協議会委員 16 名（代理出席含む。）  
日本赤十字社高知県支部 1 名  
高知県赤十字血液センター 4 名  
事務局 4 名

### 4 議題

- (1) 高知県の血液事業の概要について
- (2) 平成 30 年度高知県献血推進計画（案）について

### 5 議事の経過の概要

高知県献血推進協議会規程第 4 条に基づき、副会長に岡林弘毅氏（一般社団法人高知県医師会長）が決定した。

副会長の議事進行により、各議題について事務局及び高知県赤十字血液センターから説明があり、質疑等が行われた。

#### 議題（1）報告事項「高知県の血液事業の概要」について

事務局及び高知県赤十字血液センターから、「高知県の血液事業の概要」について説明があった。

#### 議題（2）協議事項「平成 30 年度高知県献血推進計画（案）」について

事務局から、「平成 30 年度高知県献血推進計画（案）」について説明があった。

#### 意見等

- ・委員より、献血に携わる者を対象とした研修会の要望があり、赤十字血液センターから、ブロックごとに行っている担当者会の時に開催を検討したい、との回答があった。
- ・委員より、献血の目標量の計算方法について質問があり、赤十字血液センターから全国統一の計算方法があり、製品になるために約 3% 誤差があるとされているので、想定量の 103% を目標量としている、との回答があった。また、委員から目標人数について、血液の使用量から必要な量を求めて、さらに歩留まりがあるのでその分を一定値かけて、目標の量が計算され、それを割り戻しながら人数にあてはめている、との補足説明があった。
- ・委員より、医学の進歩で使用する血液量は減ってきていると思うが、なぜ目標量が昨年度より増えているのか、との質問があり、赤十字血液センターから、山口県にある出張所を一時的に閉鎖しており、その分が各地域センターに振り分けられ、原料血漿確保のため成分献血の目標量が増えている、との回答があった。
- ・委員より、目標量は、血液の供給を目的として作られているが、予定手術では、献血による血液を使わない方法もこれから考えていく必要があるのではないか、との意見があり、委員から、献血者に頼らない自己血輸血と呼ばれる方法があるが、貧血がなく、体が丈夫で手術の予定が明確にできる方のみ活用できる方法で、血液疾患がある方や緊急手術の場合は対応できない。また、山中先生が IPS 細胞で血液を供給するような体制を目指して研究されている、との説明があった。
- ・委員より、内視鏡手術が増えてきて、手術中の出血量が減っている中で目標量が増えていることが気になる、との意見があり、赤十字血液センターから、ロボット手術や内視鏡手術で出血量は減っているが、全体の割合からすると手術で使用されている血液量は

少なく、それよりも血液疾患やがんの化学療法において多くの血液が使用されている、との説明があった。

議長から、平成 30 年度高知県献血推進計画（案）について協議会として賛同してよいか協議があり、全会一致で賛同された。